

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

プロジェクト名	確固たる宇治ブランドの確立プロジェクト	実施期間	平成30年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	本市は高級茶の代名詞である宇治茶や世界遺産の平等院、宇治上神社、源氏物語など観光資源は充実しているが、リピーター率は低く、交流人口の増加が課題となっている。 そのため、宇治茶のブランド力向上、源氏物語のまちづくりを進めるとともに、魅力的な資源の発掘、創造により宇治ブランドを確立し、宇治の魅力について情報発信していく必要がある。 加えて、関係機関と連携のもと、「お茶の京都」に関連する事業を実施することで、宇治に新たな人の流れをつくっていく必要がある。						
プロジェクトの目的及び概要	「宇治茶」「源氏物語」にとどまらず、魅力的な資源の発掘、創造により宇治ブランドを確立し、人口減少による自治体間の競争にも耐えうるような確固としたものにする。 さらに、「選ばれるまち」として交流人口を増やし、定住人口の減少に歯止めをかけるため、「住みたい思いの醸成」を実現するための施策を実施する。						
	総事業費（千円）	144,964	本年度事業費（千円）	144,964	交付金額（千円）	21,429	
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績(出来高数値等)							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	宇治茶活用事業	交付対象事業	・宇治茶を活用し、宇治茶のブランド力の向上、観光誘客を図る		・宇治茶祭奉賛会の活動支援に係る補助金 団体補助金（350千円） 1件		
	宇治茶ブランド化事業	関連事業	・市内産宇治茶のブランド化等を通じ、本市のブランド化の向上、さらなる魅力発信を図る。		・各種茶品評会入賞点数 47点 ・各種茶品評会出品点数 74点		
	観光振興事業	交付対象事業	・天ヶ瀬ダム周辺の観光資源等を活用した水辺とまちが融合した空間形成を目指す計画を策定		・「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画」を策定し、国の「かわまちづくり支援制度」に登録された。		
		関連事業	・宇治を訪れる観光客に対し宇治のイメージアップを図るため、観光関連の諸施設の整備を行う		・JR宇治駅前観光案内所給湯器修繕		
	源氏物語ミュージアム関連事業	関連事業	・施設リニューアル及び映像作成を実施、広報活動を強化		・9月14日にリニューアルオープン ・オリジナルアニメ映画（約20分）の上映（平成31年4月より） ・Web広告 3回 ・交通広告 2回 ・外国人向け広報 2回 ・学校向け広報 2回		
住民 協働 事業	宇治の魅力の深化事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮）お茶と宇治のまち歴史公園史跡ゾーン整備 ・景観計画重点区域において景観に著しく寄与する施設整備・改善に対し、助成金を交付 ・子ども手づくり文化祭及び市民文化芸術祭の開催 ・源氏ろまん宇治十帖スタンプラリーの開催 ・「紫式部文学賞」「紫式部市民文学賞」贈呈式 ・所有者等が実施する文化財保護等に対し補助を実施 ・所有者等が実施する文化財保護の災害復旧に対し補助を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども手づくり文化祭 展示作品総数 358作品、来場者数2,300人（推計） ・市民文化芸術祭 参加人数 1,675人、来場者数 7,513人（推計、市民文化芸術祭参加事業含む） ・宇治十帖スタンプラリー 踏破者数 13,146人 ・「紫式部市民文学賞」贈呈式 出席者数 34人 ・紫式部文学賞受賞者講演会 参加者数 60人 ・文化財保護 補助件数 18件（3,615千円） ・文化財保護（災害復旧） 補助件数 12件（6,138千円） 		
		魅力発信大使推進事業費	関連事業	・本市の魅力発信に取り組むため、高校生版プラットフォームの活動を支援		・魅力発信事業実施回数 2回	

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

住民が取り組む事業				
成果指標①	成果指標の目標数値	各種茶品評会入賞点数 50点	成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	47点
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	概ね目標を達成できたため
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)
成果指標②	成果指標の目標数値	各種茶品評会出品点数 85点	成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	74点
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	概ね目標を達成できたため
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)
成果指標③	成果指標の目標数値	源氏物語ミュージアム来館者数 143,000人	成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	80,572人
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	リニューアルに伴う臨時休館やリニューアルオープン後の台風21号による関西国際空港の閉鎖、台風24号上陸に伴う臨時休館が影響し、目標を達成することができなかった。
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	①②宇治茶のブランド力の向上、魅力発信に大きく寄与している。 ③国内外から多くの利用者が訪れ、宇治の魅力発信を図ることができた。 平成31年は、源氏物語ミュージアムにおいて4月からオリジナルアニメ映画の上映を予定しており、これまでのターゲットとは異なる来館者の増加を見込むことができ、宇治の魅力発信に大きく寄与することが期待できる。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。			
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	・全国関西茶品評会での産地賞を獲得、宇治茶まつりの開催により、宇治茶のブランド力の向上及び魅力発信を行うことができた。 ・宇治市観光振興計画後期アクションプランに基づき、(仮称)お茶と宇治のまち歴史公園の開業に合わせ、広域的な周遊観光を推進する計画を策定し、国の「かわまちづくり支援制度」に登録された。		
	府と市町村等との連携に資する成果	・宇治茶の普及宣伝を通じ、魅力発信について市単独実施以上の成果を得ることができた。		
	住民の自治意識を高める成果	・商店街等の取組みを通して、地域住民が地元の名産品や伝統工芸などの良さに感心を持つことができるようになるとともに、各々の事業が地域を活性化させ、地元での消費拡大の一端を担っている。		
	リーディング・モデル成果	・全国茶品評会(てん茶の部)において、56回中49回、関西茶品評会(てん茶の部)において26回中15回の産地賞を獲得しており、全国トップレベルの高品質茶の産地としての名声を高めている。		
	広域的波及成果	・宇治市内産茶のブランド化や普及宣伝を行うことで、宇治茶のさらなる魅力発信等の効果があった。 ・天ヶ瀬ダムを管理する国との協働により、ダムを活用した市内の広域的な周遊観光を推進するための計画を策定した。		

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

	行財政改革に資する成果	
	その他の成果	<ul style="list-style-type: none">・高品質な宇治茶を生産することで、市内産茶の普及促進につながった。・（仮称）お茶と宇治のまち歴史公園の整備を行うことで、周辺地域と連携した観光振興や地域振興をさらに進めることができた。

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

プロジェクト名	市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生プロジェクト		実施期間	平成30年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	魅力あるまちとなるためには、市民の主体的な関わりが重要であるが、近年の少子高齢化等の進展に伴い地域コミュニティの希薄化等の解消が課題となっている。 そのため、地域コミュニティの活性化や高齢者の生きがい創生により、市民の宇治への愛着の醸成を図るとともに、市民自らが魅力あるふるさと宇治を築くことで、宇治への愛着から定着促進につなげていく必要がある。							
プロジェクトの目的及び概要	宇治に住み続けたいという思いへとつなげるため、子供への「宇治学」のさらなる充実をはじめ、市民に宇治の魅力を再認識してもらう取組を進めるとともに、市民自らがふるさと宇治を創生するため、行政だけでなく市民参画・協働による魅力ある宇治市を実現するための施策を実施する。 また、誰もがいきいきと暮らすことは、まちの活力を生み出すことから、健康寿命の延伸を図り、健康寿命日本一を目指した取組を進める。							
	総事業費（千円）	28,910	本年度事業費（千円）	28,910	交付金額（千円）	8,837		
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	多世代交流促進事業	交付対象事業	・多世代交流を促進し、高齢者の生きがい創設、若い世代への伝統の継承により、宇治への愛着の醸成とふるさと宇治の創生を図る。			・高齢者アカデミー受講者数 71名		
	誰もがいきいきと暮らせる宇治づくり推進事業	交付対象事業	・社会福祉協議会が行うボランティア振興活動を支援			・ボランティア相談件数 200件		
	交通環境等充実事業	交付対象事業	・公共交通の利用促進を図るとともに、地域での交通手段確保のための取組を支援			・明星レインボウバス利用者数 42,952人		
	安心・安全まちづくり推進事業	交付対象事業	・国の基本計画に即した空き家等対策計画の策定 ・消防活動時に必要な装備を整備し、消防力の向上を図る ・地震に備えた建築物の安全対策を推進するため、民間保育所等におけるブロック塀の撤去などの支援に要する経費に対して補助			・平成31年3月 空き家等対策計画策定 空き家アドバイザー派遣実績 6件 ・防火衣一式 27組 ・民間保育所等4施設に対してブロック塀の撤去、代替設備の設置に係る費用の補助を行った		
	「宇治学」推進事業	関連事業	・宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶをコンセプトとした「宇治学」の推進			・5年、8年（中2）、9年（中3）の「宇治学」副読本の作成作業完了		
住民協働事業	市民協働・参画によるふるさと宇治創生事業	交付対象事業	・地域の自主防災活動等の取組に対する補助金 ・地域コミュニティの活性化に要する経費			・地域の自主防災組織の活動等の支援 自主防災組織率 73.1% ・宇治の未来に向けて何が必要かを市民主体で考える場の設置 シンポジウム開催 1回、市民ワークショップ開催 4回		
住民が取り組む事業								
成果指標 ①	成果指標の目標数値	自主防災組織率 76.0%		成果指標の実績値 (31年3月31日時点)		73.1%		
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	目標は達成できなかったが、自主防災組織率が上昇し、新たな地域の防災力向上を図ることができた。町内会が結成されていない地域での防災力向上ができていない等の課題がある。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)			(時期)		

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

成果指標②	成果指標の目標数値	高齢者アカデミー参加者数 98名		成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	71名	
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	目標を達成することはできなかったが、今後も参加者の増加を目指し、広報等を積極的に行う。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成果指標③	成果指標の目標数値	魅力発信プラットフォームによる魅力発信事業数 2回		成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	2回	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	愛着醸成に向けた魅力発信事業の取組が進められている。今後も、様々な活動を通じた事業を展開していきたい。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	①自主防災組織率が上昇し、新たな地域の防災力向上を図ることができた。今後も自主防災組織への補助事業を実施するとともに、市職員による防災出前講座や宇治市防災訓練、地域での防災訓練等への市職員の派遣等により、自主防災組織率の上昇に努めたい。 ②高齢者アカデミーの開講により、高齢者の交流機会の創出と生きがいがづくりの促進を図ることができた。 ③継続実施することで、市民、学校等と市の連携を深め、市のさらなる魅力発信につながった。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。					
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	・市民に配布しているハザードマップの利活用につながる。				
	府と市町村等との連携に資する成果					
	住民の自治意識を高める成果	・ボランティア相談等によりニーズを把握し、解決に向けて個人や団体をつなぐことによって、支援の輪を広げることができた。 ・自主防災組織は町内会、自治会単位で取り組まれることが多いため、防災を通じた自治意識の高揚が期待できる。 ・「かんがえよう これからの 地域の未来。」と題し、「フューチャー・デザイン」という未来の視点で考える手法を取り入れた取組を実施した。宇治市の未来には何が必要かを考える機会として開催した「地域コミュニティの未来を考えるシンポジウム」には約100名の参加があり、地域課題を自分事として捉える機会となった。また、「地域コミュニティの未来を考えるワークショップ」では全市より公募した32名の参加者に4回にわたり議論していただき、30年後の宇治市の地域コミュニティを描いてもらうことで、自分たちが未来に向けて今から何をしていくべきかを考えて頂いた。 ・市内の高校に通う高校生に宇治市の魅力や施策に関する情報発信に携わってもらうことで、宇治への愛着を高めることができた。また、卒業後も希望者を「宇治魅力発信大使」に任命し、市施設への招待券をつけた専用名刺を交付し、大学など次の活躍の場で引き続き魅力発信を行っている。				
	リーディング・モデル成果					
	広域的波及成果	・動画コンテストで応募のあったPR動画については、市のPRツールとして各所での上映を行い、またyoutubeやfacebookに掲載することで、広い層に対して広報機会を得ることができた。				
	行財政改革に資する成果	・来たるべき超高齢社会に備えた新しい事業を開発し、団塊の世代の社会参加を促すことで、団塊の世代のニーズに対応した効率的、効果的な新たな施策の展開へつないでいくことができた。				
	その他の成果	・消防装備の見直しにより、隊員の安全管理体制の向上、市民への安心、安全に寄与できた。 テロ対策用救助資機材の更新整備を実施し、資機材の充実を図り、災害対応能力の向上を図った。 ・乳幼児が利用する民間保育所等の危険なブロック塀や老朽化が進んだブロック塀の撤去を促進することにより、より安全な保育環境の提供を行うことができるようになった。				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

プロジェクト名	地域経済の活性化づくりプロジェクト		実施期間	平成30年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	東京への一極集中を是正し、本市において安定した雇用を生み出すために、地域経済の活性化を図るとともにまちとともに元気に成長する多様な企業が存続できるような新たな産業を振興する。 なお、安定した就労環境は、結婚、子育て、など自然増加を促していく要素において重要な条件であることも京都府が実施した少子化要因実態調査によって確認されていることから、本市においては安定した雇用創出を図る。							
プロジェクトの目的及び概要	本市に内在する地域資源を発掘し、磨くことで若い世代にもアピールできる魅力的な地域産業づくりに取組むとともに、就業に必要な技能等の習得を支援するなど、企業が求める人材の育成と雇用機会の拡充を図る。							
	総事業費（千円）	64,706	本年度事業費（千円）	64,706	交付金額（千円）	18,105		
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	産業活性化事業	交付対象事業	・市内経済の構造を分析し、地域経済の好循環を促進する ・創業初期の経営安定化、地域経済の活性化を目的とした補助を行い、市内の産業活性化につなげる。			・中小企業の創業に係る支援 支援実績 5社 ・市内の中小企業を対象に展示会への出展に要する経費を助成 5件		
	雇用促進事業	交付対象事業	・中小企業の人材確保と若者の雇用支援を目的とした、市主催の市内中小企業合同説明会を開催。			・市内中小企業合同説明会の開催 1回		
	ベンチャー企業育成支援事業	関連事業	・育成工場入居工場及び市内企業に対する支援等を実施。			・育成工場入居工場及び市内企業に対する支援 542件		
住民協働事業								
住民が取り組む事業								
成果指標①	成果指標の目標数値	市内中小企業合同説明会の開催 1回			成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	1回		
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標を達成できたため				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)				(時期)	
成果指標②	成果指標の目標数値	中小企業の創業に係る支援 5社			成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	7社		
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標を達成できたため				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)				(時期)	
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	①市内の雇用促進を図ることができたため、今後も継続して実施していく。 ②市内の創業者を支援することにより、創業初期の経営安定化・地域活性化を図ることができた。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。							

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	・ 育成工場入居工場及び市内企業に対する支援等を通じ、市内企業の育成による市経済の活性化を図ることができた。
	府と市町村等との連携に資する成果	・ 中小企業合同企業説明会開催時に、府、京都ジョブパークと共催することで、市内企業を宇治市内外にアピールし、集客することができた。
	住民の自治意識を高める成果	
	リーディング・モデル成果	
	広域的波及成果	・ 中小企業合同企業説明会のPRを各種広報媒体、大学を通じて行った結果、府外からの求職者の集客にもつながった。
	行財政改革に資する成果	
	その他の成果	

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

プロジェクト名	若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくりプロジェクト		実施期間	平成30年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	京都府が実施した少子化要因実態調査によれば、本市が属する山城北地域の在住者の結婚意向は強いことが分かるが、雇用問題や出産・育児に対する不安から未婚者の増加、少産化が問題となっている。 したがって、結婚意向を後押しするような施策を用いて、宇治市で結婚・出産・育児をしたいと思えるイメージ形成とそれらの実現に向けた支援を実施し、子どもが輝く未来の宇治市を築いていく必要がある。							
プロジェクトの目的及び概要	合計特殊出生率が低い原因は第一に未婚者が多いことの影響が強いとされ、少産化も原因のひとつとして考えられている。さらに不安定な雇用が多いことも結婚の妨げとなっていることから、結婚から子育てまでを支える体制の構築と生活の安定が必要となる。 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援と、地域で子育てを支える新しい仕組みづくりに取組むとともに、若者の安定的な雇用の確保を図り、子育てを担う若者が安心して希望する出産・育児を行うことができる環境を整備する。							
	総事業費（千円）	177,834	本年度事業費（千円）	177,834	交付金額（千円）	68,946		
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	結婚・出産支援事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・親子のふれあいの大切さを伝えるきっかけづくりのひとつとして、3か月児健診の受診者に1冊ずつ絵本を配付し、1歳8か月健診ではおすすめ絵本の展示や読み聞かせを実施 ・妊婦の口腔環境を良好にすることにより、妊婦及び胎児の健康を保ち、早産や低体重児出産のリスクを抑えるため、妊婦の歯科健診を実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診受診者への絵本配付数 1,239冊（1歳8か月児健診受診者数 1,251人） ・妊婦歯科健診受診者数 381人 		
	子育て支援環境充実事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠から出産・子育てまで切れ目のない母子支援を実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・切れ目のない支援を行うため、福祉こども部内に関係3課による「宇治市子育て世代包括支援センター」を設置 ・妊娠届出時に妊婦面談を実施しネウボラセット、子育て情報誌等を配布し、安心して相談できる場を提供 <p style="margin-left: 20px;">妊婦面談 974件（平成30年6月～平成31年3月） 子育て情報誌 市ホームページや子育てラインで電子版を掲載</p>		
	保幼小中の連携教育推進事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育の充実と小・中学校の連携を図る 			<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育体制運営教員の配置を通じた、連携教育推進に係る体制整備を実施 		
	学習環境等充実事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・より見やすいホームページの構築を目的にシステムを更新 			<ul style="list-style-type: none"> ・より見やすいホームページに更新することができた 		
	図書分類更新事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変遷に応じた分類テーマの新設や細分化により、分かりやすく利用しやすい蔵書の配架と的確で迅速なシステム検索を可能とするため図書分類更新を実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・図書分類日本十進分類法(NDC)の10版への更新に伴い、約8,700冊の該当書籍を抽出し、データ修正、背ラベル張替えを行い、合わせて配架レイアウトの変更、蔵書移動や図書館システムの改修等を実施 		
	地域等協働子育て環境充実事業	交付対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校を対象に、年齢が近く相談のしやすい臨床心理学専攻の大学院生を中心とした心と学びのパートナーを派遣 ・安全・安心な保育所等運営の確立のため、公立、民間保育所等に保育所安全運営支援員を配置 ・小学校、中学校、幼稚園における児童生徒等の安全確保を図るため、地域、保護者の協力を得て、学校運営支援員を配置（1日4時間以上） 			<ul style="list-style-type: none"> ・心と学びのパートナー 中学校6校に配置、対応延べ人数757人 ・児童、生徒等の安全確保を図るため地域、保護者の協力を得て支援員の配置等を実施 ・保育所等安全運営支援員の配置を、公立保育所（7園）、民間保育所、認定こども園（19園）及び分園（2園）で実施し、安全・安心な保育所等の運営を図ることができた 		

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

住民協働事業	学習環境等充実事業	交付対象事業	・学校現場の解決困難な事象について、学校支援チームを編成し、専門的な助言や関係機関との連携を図ることにより、早期解決に向けた支援を実施	・学校支援チーム会議開催数 11回
住民が取り組む事業				
成果指標①	成果指標の目標数値	スクール・サイエンス・サポート事業 参加児童・生徒数 250名	成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	参加児童・生徒数 のべ260名
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	概ね目標を達成できたため
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)
成果指標②	成果指標の目標数値		成果指標の実績値 (31年3月31日時点)	
	成果指標の達成状況		(左の理由)	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	理数系教育に対する興味・関心の喚起を図るため、京都大学宇治キャンパスと連携し、児童生徒を対象に4つの事業、教職員を対象に2つの事業を実施した。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。			
本プロジェクトに	関連事業との連携効果	・親子が絵本を介してふれ合うことにより、心を通わせるひとときを持ち、子育てが楽しくなるきっかけづくりができた。 ・う触菌周病の早期発見により、う触菌の母子感染や早産、低体重児出産のリスクを軽減することができた。		
	府と市町村等との連携に資する成果			
	住民の自治意識を高める成果	・保育所等安全運営支援員に地域の有償ボランティアを活用することで、地域住民のボランティア活動への参画促進や地域の安全対策についての意識の向上を図ることができた。		
	リーディング・モデル成果			
	広域的波及成果			
	行財政改革に資する成果			

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名： 宇治市

対する自己評価	その他の成果	<ul style="list-style-type: none">・絵本の読み聞かせの機会が増え、定着させるきっかけになった。・妊婦歯科健診の結果、必要に応じ妊娠中に治療し、安心して出産に臨める環境づくりができた。・学校現場の円滑な運営のため、専門家による学校支援チームを設置し、スクールソーシャルワーカーと連携を図り、学校現場で起こる困難事例に対し専門的、組織的な支援を行うことで、学校現場では課題解決に向けた確かなアセスメントやプランニングを行うことができた。・図書分類(NDC)は様々なテーマやジャンルを網羅し、非常に細かなレベルまで分類して数字で表すものであり、約10年から20年に1度の更新によって社会の変遷に応じたテーマ、ジャンルの新設や細分化がなされる。今回NDC10版への更新を行ったことにより、図書館の膨大な蔵書をより体系的で分かりやすく配架するとともに、図書館システムによる的確かつ迅速な蔵書検索が出来るようになり、利用者サービスの向上を図ることができた。加えて、図書館の蔵書構成の検討がさらに適切に行えるようになった。・生徒が悩みを気軽に相談できる若い世代の相談員を配置し、問題行動及び不登校の未然防止を図った。
---------	--------	--

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。